

## PROGRAM NOTE

1981

近藤譲：二つの小品

混声合唱のための

**Two Pieces**

for Mixed Chorus

私の初期の作曲は、主として、1本の旋律線を基礎にしてそこから曲全体の構造を導き出すという方法論に拠っていたが、1970年台の末頃から比較的大きな編成の曲を手掛けるようになるにつれて、和音とその進行（即ち、「和声法」）を、自分なりの仕方で確かめる必要性を感じるようになった。そして、1981年に、そうした意識の下で、3つの作品を書いた。13楽器のための《左岸》、8本のヴァイオリンのための《静物》、そして、この《二つの小品》である。

したがって、《二つの小品》は、和声研究のための習作とでも云うべき作品で、歌詞を持たない、純粹に抽象的な音楽である。題名通り、小さな2つの楽章から成っているが、第2曲は、独立した曲であるよりも、むしろ、第1曲のコーダを1つの極小楽章として分離したもので、実質的には、第1曲の一部を遅いテンポで繰り返しているに過ぎない。

近藤譲

初演：1982年4月（東京）

初演者：田中信昭（指揮） 東京混声合唱団

委嘱：東京混声合唱団

出版：University of York Music Press (UK)

録音：ALCD-115

演奏時間：4分